

現代住宅の平面構成に関する研究

第2報 続き間座敷のとり方

※5 ※1 ※2 ※3 ※4  
 ○正会員 藤田 由美 同 青木 正夫 同 竹下 輝和 同 磯貝 道義 同 友清 貴和  
 ※5 ※5 ※5 ※5 ※5  
 同 岡 俊江 同 宮崎 信行 同 長島 洋子 同 末広 香織

① はじめに

続き間座敷は多くの住宅に見られるが、その形態・使用は様々である。ここでは、取用性の大きな鍵となる次の間の和室と洋室の区別と、平面構成の核となる座敷とだんらん室との関係により、続き間座敷の形態を分類し、それをこのタイプの特徴や、実際のプランを見ながら住まい方を想定し、考察してゆく。

② 次の間か和室の場合

(1) 続き間座敷がだんらん室とは独立してとられているプラン (図2-1)

続き間座敷とだんらん室が離れた構成なので、接客とだんらんの間には、矛盾は生じないと思われる。又、このタイプは2階2室かほとんどなので、主寝室は1階の次の間か想定される。延床面積は80~100㎡に多く、80㎡以下のものはほとんどない。1階3室以上必要なため、延床・敷地面積ともに恵まれた条件が必要なタイプである。

(2) 次の間とだんらん室が続いているプラン (図2-2)

(1)とほぼ変わらない生活が想定される。しかし、3室続いているので、だんらん室の拡大が可能であるが、次の間か主寝室である場合、だんらん室と続いているので、寝室としては不安定である。延床面積と室数構成は、(1)と同じである。

(3) 座敷とだんらん室が続いているプラン

このタイプはだんらん室がほとんど洋室で、2階2室か多く主寝室は座敷・次の間のどちらかであると思われる。又、接客・客の宿泊は、だんらん室の横の座敷か次の間か判断できない。延床面積と室数構成は、(1)と同じである。

(4) 次の間かだんらん室であるプラン (図2-3)

座敷と接客、次の間をだんらんに使用できるが、このタイプは2階2室かほとんどであるため、主寝室は1階にとられる。主寝室はだんらん室との重なりをさ

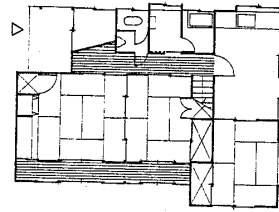


図2-1 16 富山県  
延床面積 104㎡ 2階2室

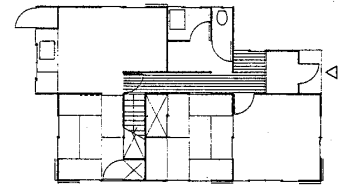


図2-6 24 三重県  
延床面積 99㎡ 2階2室

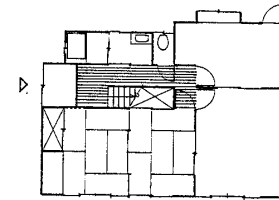


図2-2 40 福岡県  
延床面積 98㎡ 2階2室

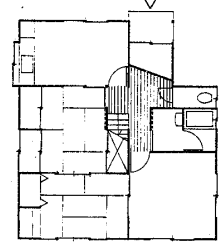


図2-7 44 大分県  
延床面積 96㎡ 2階2室

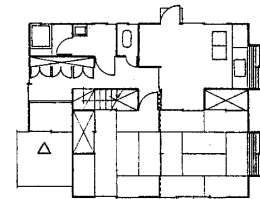


図2-3 20 長野県  
延床面積 94㎡ 2階2室

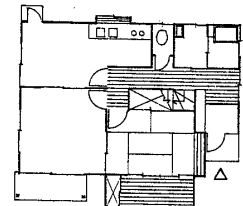


図2-8 12 千葉県  
延床面積 99㎡ 2階3室

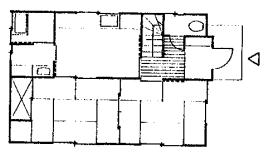


図2-4 46 鹿児島県  
延床面積 71㎡ 2階2室

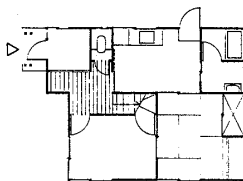


図2-9 31 鳥取県  
延床面積 96㎡ 2階3室

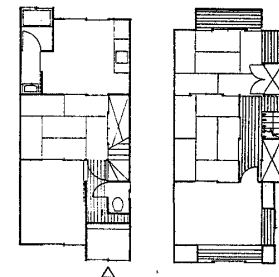


図2-5 26 京都府  
延床面積 71㎡ 2階3室

けると座敷になるが、宿泊客がある場合主寝室を移動しなければならず、不安定な利用となる。延床面積は60~110㎡が多い。1階にもう1室増えLタイプもわずかながらあるが、この室はほとんど洋室で、寝室・応接間の両方の利用ができる。寝室にすると、接客・だんらん・就寝とも矛盾はない。応接間にすると、座敷を主寝室に利用し、前述と同じく不安定となる。

(5) 座敷とだんらん室が重なっているプラン (図2-4)

玄関からの座敷へのアクセスは、次の間を経由する次の間入りで、格式的な接客作法の動線形態を保っている。しかし、座敷がDKの隣に位置しているため、だんらん室となりやすく、果して座敷で接客が行われているかどうかかわからない。又、このタイプは1階2室2階2室の4室型住宅が多く、主寝室を1階に取る場合、座敷・次の間のどちらに取るかは不明であり、特に次の間の用途は明確でない。宿泊客のある場合は、1階2室とも和室なので用途の重なりはあっても迫めることはできる。延床面積は60~100㎡が多く、(4)と較べてあまり変わらない。

(6) 2階に続き間座敷があるプラン (図2-5)

京都・大阪の多いタテ長の住宅にのみ見られる。客は2階に上り接待されると考えられる。1階2室2階3室が多く、廊下部分はほとんど無く室数の割に非常に延床面積は小さい。

③ 次の間が洋室の場合

洋室の次の間も就寝に利用することはほとんどないと考えられ、この点が大きく和室の場合と異なる。

(1) 続き間座敷がだんらん室とは独立してとられているプラン (図2-6)

このタイプは1階3室2階2室がほとんどで、だんらん室は和室が多い。主寝室は日常は座敷となろうか宿泊客のある場合、移動が生じ不安定となる。延床面積は90~120㎡が多い。

(2) 次の間とだんらん室が続いているプラン

だんらん室はほとんど和室で、次の間はだんらん室の拡大として利用されると考えられる。又、応接セット等によるしつらえも考えられる。延床面積・室数構成其(1)とほぼ同じである。

(3) 座敷とだんらん室が続いているプラン (図2-7)

これもだんらん室はほとんど和室で、和室2室の続き間とも見ることが出来る。主寝室は(1)と同様座敷と考えられ不安定である。

(4) 次の間がだんらん室であるプラン (図2-8)

1階2室がほとんどだが、2階は2室3室は半々である。2室の場合は寝室が3室しか確保できず、客の宿泊は就寝分離もくまもない限り不可能である。3室の場合は矛盾はない。延床面積は70~130㎡が多い。

(5) 座敷とだんらん室が重なっているプラン (図2-9)

和室の場合の(5)と同様に次の間入りであるが、2階3室がほとんどでこれは次の間が洋室だと1階の就寝室が減り、そのため和室の場合より1室増えていると考えられる。延床面積は70~110㎡が多い。

④ まとめ

座敷とだんらん室の関係が同じ場合、次の間が洋室の方が和室よりも最低延床面積がやく10㎡程度大きく、総室数も和室では4室が結構あるが洋室ではほとんどない。又、洋室の次の間はほとんどだんらん室になる。

図2-10は、全国の続き間座敷の形態を示したものである。

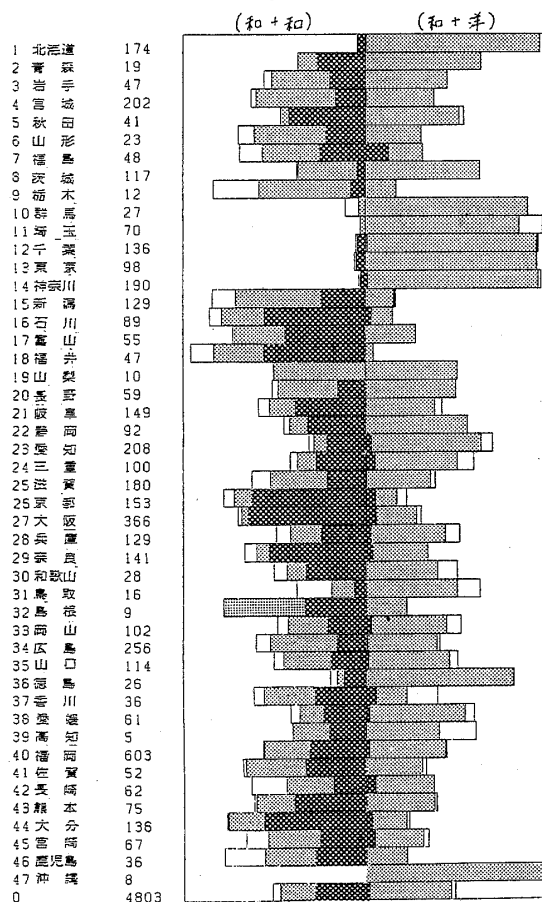


図2-10 続き間座敷の形態  
 (1) (2) (3) (6) 続き間がだんらん室と別にある  
 次の間がだんらん室と重なっている  
 (4)  
 (5) 座敷がだんらん室と重なっている

※1 九大教授・工博 ※2 同講師 ※3 同助手 ※4 同助手・工博 ※5 同大学院生